

みんなのた場

＋１ク 仲問

海の男の感謝の気持ち 美しい景色を守る清掃活動

大須灯台会



▲大須灯台会のメンバーの皆さん

海上には、視界の全てを奪う濃霧や突然の嵐等、常に危険が横たわっています。そのような場所で働く漁業者を安全な港に導く灯台は市内に数多くあります。雄勝町大須の大須崎灯台も昭和24年から66年間にわたり航行する船舶を見守ってきました。

大須崎灯台に感謝の気持ちを抱き、ボランティアで清掃活動を行っているのが、地元の漁業者OBを中心とする「大須灯台会」です。正会員と協

力員の合わせて27人が年数回、草刈り作業やゴミ拾い等を行っています。大須崎灯台が立つ岬から太平洋を望む景色は雄大です。どこまでも広がる水平線や、海岸線まで山々が迫るリアス式海岸特有の景色を一度に楽しめることから多くの人が訪れています。しかし、心ない人たちのゴミのポイ捨て等が住民の悩みの種でもありました。



▲美しい景色が魅力の大須崎灯台には多くの人たちが訪れます

平成13年に遠洋漁業等を定年退職した漁業者の皆さんが灯台会を結成し、本格的に活動を始めました。

毎回、作業前日や当日の朝に有線放送で地域内に呼び掛けると、用事がある人以外は灯台の下に集まり、草刈りのほか環境美化のための花の植栽等を行います。このほか大須小学校から荒地区までの約3キロの道路でゴミ拾い作業も繰り広げます。

平成14年には県からスマイルロードサポーターに認定されました。また、昨年は長年にわたる灯台の環境維持への協力を称え第二管区海上保安部から表彰を受けました。

会長の小松英雄さん(76)は「皆で仲良く楽しみながらやっているのが長く続ける秘訣です。ぜひ多くの方に大須の景色を楽しんでいただきたい」と話していました。

文化財 たんぽう

85

はぐろした 羽黒下遺跡の

縄文土器について

石巻市教育委員会 生涯学習課

前回紹介しました、発掘調査中の羽黒下遺跡では、多くの縄文土器や石器が出土しています。

今回は、縄文人が煮炊きや木の実の貯蔵に使用したと考えられる縄文土器の文様について紹介します。

縄文土器の文様というと、縄を転がして…というイメージが強いと思いますが、粘土紐を張り付けたり、竹や貝殻で描いたりさまざまです。地域や時代によって違いがあり、文様の種類も多く、縄文人

の創造力には驚かされるばかりです。

また、関東地方に多く分布する、口縁部にイノシシの顔があしらわれた土器の破片も出土しており、遠い地域とのつながりも垣間見えます。



▲羽黒下遺跡出土縄文土器



の様子を解明していきたいと思います。

キラッとパチリ



安心して暮らせる街へ

復興支援で石巻市に派遣されている職員の皆さんの中から、神谷知宏さんと宮本洋平さんをご紹介します。

※ ※ 神谷さんは平成26年4月から来年3月までの2年間の任期で防災集団移転促進

事業における事業対象地の買い取り業務にあたっています。他部署と連携をしながら、土地の活用が進むように力を注いでいます。

※ ※ 神谷さんは「安城市は石巻とは異なり海も山もない街です。石巻の冬は寒くて大



復興事業部 用地課
神谷知宏さん 28歳
愛知県安城市から派遣



復興事業部 区画整理第2課
宮本洋平さん 38歳
愛知県豊川市から派遣

変ですが、自然が豊かなところが好きです」と両市の違いを感じています。

宮本さんは本年4月から来年3月までの1年間の任期です。土地区画整理事業に伴う移転補償業務を担当しています。事業対象区域の一人一人と向き合いながらスピード感を持って、丁寧な業務を心がけています。

自転車が趣味の宮本さんは「牡鹿半島の道を走ったとき、眺望がきれいで感動しました」と語っていました。

将来の石巻について、神谷さんは「子どもからお年寄りまで誰もが笑顔で暮らせる街になつてほしいです」と述べ、宮本さんは「安心して日々の暮らしができる住みよい街となることを願っています」と期待を込めていました。

まちの話題

雄勝地区



8月10日(月)~31日(月)
オーリンクハウス

徴傭船ちようようせんになった 漁船しやうかいの足跡あしあと伝える

終戦70年資料展「知られざる漁船の戦い〜雄勝町の徴傭船」では、太平洋戦争中、哨戒や物資運搬等として軍に駆り出された雄勝地区の漁船について、写真のほか、乗組員の回想記等をまじえて伝えました。戦争を知らない世代の中には地元の漁船が戦地に赴いたことを初めて知った人も多く、「このような事実を伝えていくことは大切です」と語り、1点1点を見入っていました。

河北地区



8月25日(火)
河北署付近の商業施設駐車場

地域を挙げて 交通安全活動

昨年、県内で交通事故が多発したことから、事故多発日の前日は「安全広報日」となっています。この安全広報日にあたる8月25日(火)に河北警察署による啓発活動が行われました。同署と地区内の交通安全協会、安全活動推進委員会が一体となって住民にチラシを配布し、交通事故防止を呼びかけました。子どもからお年寄りまで訪れた人たちは笑顔で応えていました。

桃生地区



8月30日(日)
桃生総合支所駐車場

消防演習で規律訓練 きびきびと展開

市消防団桃生地区団の消防演習が行われ、6分団(団員253人)から200人が参加して消防車の機械器具点検や規律訓練の競技を繰り広げました。このうち規律訓練では、分団ごとに団員18人が隊列を組み、指揮者の号令できびきびとした隊列移動を披露しました。いずれも地域の安全と安心を守るため日ごろから取り組んでいる練習の成果を存分に発揮しました。

河南地区



8月15日(土)
和渚水辺の楽校

河川敷を彩る 無数の明かり

お盆の恒例行事の和渚夏祭りが開催され、ステージでは太鼓やサクソ、コカリナの生演奏等が繰り広げられました。日が暮れると先祖や震災犠牲者の供養とともに復興への祈りを込めた約6千個の灯ろうに明かりがとまり、河川敷は赤、青、黄色等の優しい光でいっぱいになりました。最後は打ち上げ花火と和太鼓演奏が同時に行われ、にぎやかに祭りを締めくくりました。

牡鹿地区



9月5日(土)
牡鹿公民館跡地

“阿波踊り”が 鮎川あづがわにやってきた

「一緒に楽しむ阿波踊り」をモットーに、東京・神楽坂を拠点に活動している「ながし連」の皆さんが訪れ、牡鹿地区敬老会のアトラクションや、おしか清心苑で阿波踊りを披露しました。その後、牡鹿公民館跡地にステージを移し、大勢の観客の前で踊りを見せてくれました。さらに、会場の人たちも簡単な指導を受け、若者からお年寄りまでが一緒になって「踊らな損々」と阿波踊りを楽しみました。

北上地区



8月12日(水)
北上中学校駐車場

住民待望の にっこり夕市復活

地元の新鮮な海の幸等を格安で提供する「にっこり夕市」が震災後初めて開催され、地域の人や帰省客、震災の影響で他地域に移り住んだ人等で活気づきました。北上地区のにぎわいをアピールするとともに、地域一丸で前進していこうと北上地域物産振興協会が5年ぶりに催しました。盆の夕市再開を待ち望んでいた人は多く、100個限定で予約販売したホタテは早々に売り切れていました。

石巻地区



9月6日(日)
石巻専修大学体育館

お達者な笑顔 いつまでも

石巻地区の敬老会には、77歳以上の招待者1万1348人のうち約550人が出席しました。第1部の式典では、88歳の米寿を迎えた代表者男女各1人に敬老祝い金が贈られました。2部のアトラクションでは、皆さんの長寿を祝って寺崎はねこ踊り保存会による県指定無形民俗文化財の「寺崎はねこ踊り」や石巻きぼうゴスペルクワイヤの歌が披露され、会場は明るい笑顔と手拍子に包まれました。

石巻地区



9月5日(土)
JAいしのまき西農業倉庫

里の幸や海の幸が 勢ぞろい

農作物や水産加工品等地元食材を一堂に集めた「食興祭しょっこうさい」が盛大に開かれました。食で地域の復興を進めようと、JAいしのまき青年部等による実行委員会が平成23年から毎年開催しています。とれたての新鮮な野菜を格安で提供した「軽トラ市」や、農作物を満載した一輪車の重量当てクイズ等があり、来場者の人気を集めました。